

校長・副校長・
教頭先生に役立つ！



【発行日】 平成30年 1月31日
【発行者】 茨城県教育庁就学前教育・家庭教育推進室
電話 (029) 301-5132
【取材・編集】 一般社団法人 子育てネットワーク ままもり

すくすく育て いばらきっ子

就学前教育・家庭教育推進室だより

しばはら こういち
教育委員会 柴原 宏一 教育長 にお話を伺いました

昨年11月に就任された柴原教育長は、1978年の
県立日立商業高校教諭から始まり、県教育庁高校
教育課長、教育次長、茨城大学全学教職センター教授
などを歴任されました。
今回は、県の教育に関しての想いや、期待すること
などをお伺いしました。



— 今後、特に力を入れて取り組みたいことは何ですか？

- 幼児教育施設から小学校へ、小学校から中学校、高校への接続が課題だと思っています。保育所と幼稚園等の意識の統一も重要です。縦と横の連携です。公立であっても私立であってもお互いに理解し連携できると考えています。連携と口で言うのは簡単ですが、実際に意識の違いの壁を乗り越えることは容易ではないかもしれません。しかし、子どもたちのことを中心に考え、お互いに歩み寄れば実現不可能なことではないと思います。

— 現代ならではの課題はありますか？

- 昔よりも家庭の教育力が低下しているのではと危惧しています。それは、核家族化が進み、育児に自信がない、誰に聞けば良いか分からないという保護者側の悩みもあるでしょう。不安になり、焦ってイライラしてしまうことで虐待やネグレクトなどの問題につながるおそれもあります。県でも家庭教育の推進に力を入れています。学校現場でも家庭の教育力を上げるような工夫をしていただき、教育は決して学校だけが担うのではなく家庭での教育も重要であることを保護者の皆様に伝えていただきたいと思えます。

— 管理職の先生方に「是非これだけは忘れないでほしい」と伝えたいこと

- 冒頭でもお伝えしましたが、保幼小中高の壁をなくし、スムーズな接続ができるよう努めていただきたいです。現在既に、お互いの保育や教育の内容を見て研究しカリキュラムを作成するなどの取組がなされています。スムーズな接続で子どもたちのつまづきは減り、学校に行くことが楽しくなるでしょう。子どもたちのことを第一に考えて、保幼小中高が垣根なくつながっていくことを望んでいます。

— ご自身の将来の夢「子育てしている若い世代への支援」について、お聞かせください。

- 家庭の教育力の低下を先に述べましたが、若い子育て世代は不安を抱えながら育児をしています。私はその手助けとなるような場「子育て研究所」を作るのが夢です。高校での教職生活の経験から、やはり幼い頃に共感してもらえた子は、感情を表現でき優しく素直に成長することを実感しました。幼少期の経験が重要なのです。カウンセラー資格を持つ妻と一緒に実現させたい夢の一つです。

— 子どもの頃の夢は何ですか？

- パイロットになるのが夢でした。その次は生物学の研究者に憧れていましたが、実際は教職を選択しました。しかし、生徒に育てられる経験を通じて、「人との出会い、触れ合いの魅力」に気付きました。その頃から、子どもたちの人生に関われる教職ほど素敵な職業はないと思っています。

生涯の学びの基盤は乳幼児期から始まっています！

幼児教育は「環境を通して行う教育」

幼児期の保育は、その時期の発達の特徴を踏まえ、子どもが意欲をもって周囲の環境に主体的に関わり、生活が展開できるように進められます。そのために、子どもの保育環境を計画的に整え、望ましい方向に向かって子どもの発達を促す教育が基本となります。

幼児に望ましい環境・・・

- 見たり、触れたりする体験ができる場の設定
- 興味や関心の刺激となる環境（材料・用具の準備）
- 時期に合った絵本や図鑑、壁面などの構成
- 共に遊んだり生活したりする友達の存在
- 子どものありのままの姿を受け入れ、適切に援助する保育者の存在



写真は、社会福祉法人中根福祉会 北浦こども園、学校法人さくら学園 認定こども園さくら幼稚園の様子です。

こうした環境の構成によって、子どもが遊びや活動に積極的に取り組むかどうか、達成感や充実感が十分に得られるかが異なってきます。このような視点をもって保育参観することにより、

小学校との接続を見据えた環境構成の在り方が見えてきます。

保育者※は 生涯の学びの基盤 をつくっています



※保育士、幼稚園教諭、保育教諭等、幼児教育施設で保育・教育を行う先生方を保育者といいます。

環境との関わりを深め、幼児の主体的な遊びを可能にするものが保育者と子どもの関わりです。

幼児の遊びを大切にし、幼児がやってみたいと思えるようにすることや、子どもの試行錯誤を認め、時間をかけて取り組めるようにすることが重要視されています。

保育者は

- 子どもの遊びの創造を援助する
- 子どもが遊びに没頭できる環境を整える
- 子どもの主体性を十分に発揮できるようにする
- 友達同士の思いをつなぎ、協同性を育む
- それぞれの生活や遊びを結びつける

子どもたちの
生涯の学びや
成長の
基盤をつくる

幼児にとっては「遊びが学び」です。幼児期の遊びによって育まれた力は、小学校における様々な学習や生活の基礎となっています。小学校以降の学力や協調性は、幼児教育におけるこうした遊びと大きく関係しているといわれています。